校長会　６月　③　　2023.6

２０３０年以降の社会の在り方を見据えて

第１期教育振興基本計画　⇔　【生きる力】
２００８年（平成２０年）～

◎「知」・・・確かな学力(かしこく)
◎「徳」・・・豊かな心(やさしく)　　⇒　『三位一体の理念』
◎「体」・・・健やかな体(たくましく)

【アクティブ・ラーニング】Active-Learning

中教審教育課程企画特別部会は、２０１５年（平成２７年）「論点整理」をとりまとめた。

「学校教育に『外の風』、すなわち、変化する社会の動きを取り込み、世の中と結び付いた授業等を通じて、これからの人生を前向きに考えさせることが、主体的な学びの鍵となる。」〔不易流行の流行部〕

「予測できない未来に対応するためには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要である。」

第２期教育振興基本計画　⇔【生涯を貫く教育の方向性】
２０１３年（平成２５年）～

生涯学習社会の構築　←「自立」「協働」「創造」

第１期計画・・・学校段階での縦割り整理
第２期計画・・・学校間や学校教育と職業生活等との円滑な接続を重視する視点が盛り込まれた。

※４つの基本的方向性の設定
①「社会を生き抜く力（Communication 能力）」の養成
②未来への飛躍を実現する人材の養成
③学びのセーフティネットの構築
④絆づくりと活力あるコミュニティの形成

⇒　いずれにしても基盤にあるのは言葉である。相手の言葉を正確に受け止めて理解すること。あるいは自らの考えをまとめて伝達することである。伝達は相手が理解することで成立するということを心に刻む。人間は社会的生物との認識から**Ｃommunication 能力の開発**が重要である。←「国際化」

第３期教育振興基本計画　⇔　【育成すべき資質・能力】
２０１８年（平成３０年）～

三つの柱で資質・能力を確実に育成するため、新学習指導要領の周知・徹底及び着実な実施を進める。

①「何を理解しているか、何ができるか」
②「理解していること・できることをどう使うか」
③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」

なお、その際特に、第２期計画の「自立・協働・創造」の理念を継承しつつ、**主体的・対話的で探究心のある深い学びの視点**から「アクティブ・ラーニング」を取り入れた授業改善を推進することやカリキュラム・マネジメントを確立することが重要である。

◆　新地町ではＤeep-Ｌearning の真義を熟考し、「主体的・対話的で**探究的な**深い学び・・・」と解釈している。

〔第3期教育振興基本計画と並列する語〕

◆　『Ｓociety　５．０』　ＩＣＴや人工頭脳、ロボット等の先端技術を産業や社会生活に取り入れた変革によって経済成長と社会課題の解決が期待される時代。狩猟→農耕→工業→情報・商業

◆　『ＳＤＧs』　「持続可能な開発目標」のことで、教育では２０３０年度を目標にした『誰一人取り残さない社会の実現』を国際社会全体で推進する。

⇒　**「不易流行」**、教育自体は児童生徒の人格形成を司るという何時の時代も変わることがない**不易・不変な理念**がある。しかし、教育実践では「読み・書き・そろばん」から、時代の潮流とマッチしたＩＣＴ機器等の**流行を取り入れた学習**にならざるを得ない。